

国・県・市の連携を活用し、今しかできないまちづくりを



自由民主党市議団
森 遵 議員



後半2年間の まちづくりの重点施策と 重点事業について

問 市長の任期の後半2年、特に力を入れる重点施策、重点事業は何か。

答 公約に掲げたまちづくりの中でも、本市独自の子育て支援、小中一貫教育の推進、誰一人取り残さない学びの保障に向けた取組を進めていく。

また、新大牟田駅産業団地への企業誘致に加え、民間のノウハウを活用したIT関連企業の誘致や、若い世代に本市の魅力的な企業や産業を知ってもらうための取組を進め、さらに、昨年立ち上げたアーバンデザインセンターおおむたとの連携により、まちなかの再生・活性化を進めていく。

加えて、排水対策基本計画に基づき、災害に強いまちづくりを加速させていく。

再発言 国の第2世代交付金の枠が1自治体当たり年10億円あるが、もっと活用して、まちづくりを加速化されたい。

市民の安心安全のために、 万全の備えを

問 今年の夏まつりは、残念ながらガス漏洩事故により中

止となった。重傷者がおられなかったことは不幸中の幸いだが、事故に対する市長の受け止めを伺う。

答 二度とこのような事故が起こらないよう、安全対策の徹底を改めて求めるとともに、合同訓練等を通じて、万一に備えた万全の体制を構築していきたい。

問 企業の再発防止策をどのように評価しているのか。

答 会社から提出された事故調査報告書には、事故原因の推定と、それを踏まえた再発防止策の取組、また、万一漏洩事故が発生した場合における拡散抑制の対策、さらに通報体制や初期広報活動の改善が盛り込まれている。

本市としては、これらの対策が確実かつ速やかに実行されることを求めていく。

今後、今回の事案を想定した防災訓練の実施等により、二度とこのような事故が起こらない万全の体制を構築する一方、工場に対して安全な工場運営を強く要請していく。

問 金銭面での被害ということも漏れ聞こえるが、市としてどう対応するのか。

答 大集合パレードに参加された各山車や祇園六山、移動商組合など関係者の様々な御意見に関しては、まつり振興会の事務局である市と商工会議所が取りまとめた上で、会社伝えていく。

再発言 次があってはならないが、次への備えに万全を尽くす必要がある。これまでど

おり、大牟田の重要な中核企業として事業活動が続けられるためにも、市も協力して、市民の皆さんの安心・安全、信頼をしっかりと確保するように努められたい。

大牟田の宝である 「大蛇山」まつりを 後世に受け継げ



問 おおむた「大蛇山」まつりは、市民が大牟田市で最も誇りに思うものである。

伝統行事であるだけでなく、地域に多数の山車が造られ、若者や子供たちを育む貴重な場となっている。

今後とも持続可能なまつりとするための課題は。

答 警備費高騰等で、支出が増える一方、大蛇山Tシャツの売上げが大きく落ち込んでいる。今後は、収入と支出両面において改善を図り、まつりの持続可能性を高めていく必要があると考える。

再発言 後世にしっかりと受け継いでいくため、もっと外から人を呼び込み、宿泊を促す仕掛け、よりまちが潤うように持っていきたい。

まつりの持つ大牟田での意義を考えて、また、来場者の安全確保のためにも、今年までと言われた上乗せ支援を、来年も引き続き実施されたい。